

令和2年度 学校評価実施報告書

京都市立松尾中学校

教育目標

校 訓 『豊かな心』

学校教育目標

「主体的に学びながら、他者との協働を通して問題解決する力の育成」

- ・人権尊重の精神の涵養
- ・自ら学ぶことができる力の育成
- ・自ら律することができる力の育成
- ・健康で逞しい心身の育成

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・各教科で「主体的・対話的」な話し合いを取り入れた活動が定着し、能動的に表現する力の育成に繋げることができた。・次年度はＩＣＴを活用した教育活動を展開するために、研修・実践に全教職員取組む体制をとり、問題解決する力を育てる教育活動を行う。・キャリア教育、道徳教育をさらに進化させるために、ＰＤＣＡサイクルを意識し、実践していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度は対外的な取組に制限があり、ポスターセッションなどの活動は学校内のみになったが、継続できるよう、松中ＷＶＰ（ワーキング・ビジョン・プログラム）などキャリア教育の継続を望む。・地域の活動を通して、社会に貢献できる人材の育成を図ってもらいたい。・挨拶が身についており、落ち着いた環境の中で学習できていると思う。年々PTA活動が困難になっているようだが、読書や学習を通して、道徳心や人権意識が高まるよう、家庭・地域共に学校運営に関わり、子どもたちと一緒に育んでいくことを大切にしたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月17日	学校運営協議会
最終評価	令和3年3月1日	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

授業改善、家庭学習の習慣化、学習規律の向上、読書習慣の定着

具体的な取組

- ・アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業改善への研究実践
- ・学習目標を明確にした授業展開と振り返りと評価の充実
- ・全学年でフォーサイトふり返り向上手帳を導入し, ①時間管理（有効活用できる時間の可視化）, ②学習習慣, ③見通し力（計画力の向上）, ④自己肯定感（ふり返りのくり返しによる成長の実感）, ⑤能動的学習力（主体性・能動性を向上させ, 自ら学習する姿勢を身につける）をつけさせることを目指す。（本校では「Mノート」と命名）
- ・小中合同を含め年間5回の研究授業の実施による指導力向上
- ・授業と家庭学習を連動し, 生徒個々の習熟度に合わせた課題（プリント）の提供を工夫（教室に配架棚を設置）するとともに, データベース（東京書籍）を有効的に活用する。
- ・自主参加の学習相談会を活用した家庭学習の習慣化に向けた指導と課題点検
- ・ベル前着席, あいさつの指導徹底, 学習活動（考える, 学び合う, 聞く）の明確化による学習規律の確立
- ・朝読書の確実な実施と図書委員会活動の活性化と図書館機能の充実
- ・インクルーシブ教育推進の立場から, 教科指導において, 普通学級の中で車椅子の生徒とともに学んでいくためのシステム（教材, 指導方法の改善, 評価方法の工夫など）を, 試行錯誤しながら新たに開発・実践していく。
- ・GIGAスクールの取組（ベネッセ利用）

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学習確認プログラムの分析
- ・教科会を中心とした学力分析
- ・学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・数学, 英語については全市平均を3ポイント以上, 上回っている。
- ・数学では数と式・図形領域が高く, 英語では知識理解が秀でている。
- ・授業がわかりやすい94%であるのに対して, 学力が身についている77%, 家庭学習にきちんと取り組んでいる76%と答えている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・技能, 知識・理解は定着しているようであるが, アウトプットすることに弱さが見られる。
- ・小プリントや小テストを繰り返すことで, 基礎的な学力は十分に身についている。
- ・楽しく学ぶだけに止まらず, 活用できる力を育成する。

分析を踏まえた取組の改善

- ・家庭学習を通して, 基礎的な学びに止まらず, 応用力に発展させられるように工夫する必要がある。
- ・教科会を充実させ, 分析したことへの具体的な学習活動を検討する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・校内研究授業の活用と協議による検証
- ・次回の確認プログラム
- ・学校評価アンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な家庭学習ができるように工夫をしてもらいたい。 ・朝読書は定着しているようなので、公共の図書館利用など多方面への関心につながると思う。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムにおいて、全学年全氏平均を上回った。特に数学は全市平均より上回っている。(1・2年は8ポイント 3年は3ポイントあまり)。中でも、数学的な技能の問題については十分な力を身につけられている。 ・他の教科でも前向きに学習する姿勢が結果に繋がっていることが伺えた。 ・学校評価アンケートにおいて、「授業は他の生徒と話し合って考えるなどわかりやすく工夫されている」と回答した生徒が95%にまで増えた。 ・「基本的な学習がわかり、学力が身についてきた」の項目についても「できている」と回答した生徒が87%あまりになっている。 ・「家庭学習にきちんと取り組んでいる」については74%であり、大きな変化は見られなかった。 ・フォーサイト手帳を上手く活用し、計画的に学習に取り組めるようになってきている。
学校 関 係 者 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動において話し合いや発表の仕方を身につけ、能動的に授業に取り組めている。 ・基礎・基本的な力は定着している。応用力を身につけるためにもアウトプットする機会を増やしていく必要がある。 ・家庭学習に取り組めているかの数値に変化は見られず、定着させられるように短期的・長期的なものを組み合わせるなど考えていかねばならない。 ・フォーサイト手帳の活用については家庭との連携も考えたい。読書についても学校においてだけでなく、読書環境を充実させる。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動をさらに活性化させ、表現力を身につけせるための授業展開を構築していく。そのためにも明確な目的をもった教科会にしていく。 ・継続した学習を習慣化させるために、生徒が主体的に取り組める内容やカリキュラム・マネジメントを意識した授業の推進を目指す。 ・読書や家庭学習のPDCAサイクルを取り入れ、工夫していく。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、学習環境を整え、学力の定着を図ってもらいたい。 ・今年度実施できなかった松中ワーキング・ビジョン・プログラムについては実施できるように対策を考えてほしい。地域のことや職業について知り、キャリア教育に役立ててほしい。 ・家庭学習については、家庭と連携を深めていくことで改善されると思う。地域でも話題にしていく。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

人に対する思いやりと感謝の気持ちを持ち、社会性を身につけ、心豊かに逞しく生きる生徒の育成

具体的な取組

- ・小中一貫した「あいさつ」を通した交流と良い関係づくりの推進
- ・地域を中心としたボランティア活動の活性化による社会貢献への意識の高揚
- ・毎朝の「呼名」、「いいところ探し」の取組推進
- ・教育相談活動の充実
- ・道徳、人権学習を通した実践的態度の育成。道徳では、「自主性」「思いやり」「規範意識」を育むべき力として、重点項目・内容を統一した小中一貫道徳カリキュラムを編成し小中合同の授業研究・交流を実践してきた。昨年度の文科省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研究を引き続き深化させていく。人権教育では、クロスカリキュラムを意識した取組を推進する。
- ・自治的活動を意識した生徒会を中心とした協働的な活動の推進

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・クラスマネジメントシート、いじめ調査、教育相談アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・規範意識が身についてきた 96%，自ら挨拶し、よい関係を作ろうとしている 86.6%と引き続き高い。
- ・調査において深刻ないじめ事案はなく、教員が悩みや相談に適切に応じていると感じている生徒が 92%にのぼる。
- ・どのクラスも雰囲気は居心地のよいものであるという分析結果が出ている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・自ら挨拶できる生徒は増えてきたが、規範意識と行動が比例していない部分もある。
- ・支援を要する生徒に対しても適切に対応できるよう、生徒指導委員会や教育相談委員会などが組織として機能している。
- ・小集団活動を通して、個々の自尊感情を高める取り組みを継続したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒会活動や日々の生活の中で、意識と自発的な行動が伴う力を身につけるように指導する。
- ・多方面・多角的に物事を捉えられるように道徳を充実させる。
- ・学年や学級の活動を通して、自尊感情と同時に思いやりを育む。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・クラスマネジメントシート、いじめ調査、教育相談アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・挨拶は気持ちよくしてくれている。
- ・登下校でマナーを守ってもらいたいと思うこともあるので、地域で情報交換しながら協力していきたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・規範意識については 97%と高い数値を示している。・挨拶への意識も引き続き高く,人を気遣うことができているという意識についても 92%が「大体できている」「できている」と回答している。・アンケートで悩みの記述もあったが,深刻ないじめ事案になりそうなことはなく,教員が悩みや相談に適切に応じていると感じている生徒が 88%あまりいた。・行事は少なかったが,数少ない取組みでも充実感を得られたことがアンケートから伺えた。
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・6割もの生徒が教員は熱心に取り組んでいると感じており,そのことが集団生活の中で他者に思いやりをもって接することに繋がっていると思われる。・規範意識については,普段の指導と家庭の教育力によるものであり,社会性をさらに身につけさせたい。・ローテーション道徳を取り入れ,担任だけでなく,学年・学校全体で道徳心を育めるように来年度も主体的・対話的な授業作りを展開していく。・生徒会活動や部活動等で,生徒主体の活動を発展させられるよう,指導を工夫していく必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・挨拶の励行は継続し,課題を共有し,振り返りと改善のサイクルを作っていく。・普段の教育活動において,ボランティア活動の意識付けを工夫し,道徳心をもって行動できるよう横断的な取組みを取り入れていく。・生徒指導部を中心に会議における情報交換や教員の研修を充実させる。・生徒会活動をさらに発展させられるよう,地域との交流も深めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度は触れ合えるような活動はなかったが,来年度は工夫して地域との交流を図ってもらいたい。・挨拶の励行は引き続きしてもらいたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>自他を大切にする態度の育成, 心身ともに健やかな環境づくり</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的生活習慣の確立に向け, 規則正しい生活習慣の啓発・「<u>健康教育</u>」と「<u>ほけんだより</u>」の充実を図る・部活動や体育的行事の活性化・安全で過ごしやすい校内環境整備・<u>スマホやゲームなどの家庭でのルールづくりへの啓発と支援</u>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">スマートフォンの使用時間や使用目的・帰宅時間を探れていない生徒が2割、規則正しい生活習慣が身についていない生徒は2割5分に上る。8割5分の生徒が「美しく、過ごしやすい環境である」と捉えている。	
自己評価	
分析 (成果と課題)	
<ul style="list-style-type: none">外部からの講師を招き、ケータイ教室を行っており、使用上のトラブル等を指導することはほとんどない。フォーサイト手帳を用い、自ら記入することで自発的に効率よく時間が使えるように指導していく必要がある。「保健だより」を用いた指導や日々の保健指導により、保健室への来室は少ない状況にある。	
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none">登校時間や就寝時間を家庭と共に意識付けを行う必要がある。啓発活動については、生徒会活動にも生かしていく。スマートフォンの使用方法については、保護者も含めて引き続き啓発を行っていきたい。「食育」の研修を活用し、実生活につながる教育活動ができる体制を整えていきたい。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none">学校評価アンケートフォーサイト手帳分析結果レポート	
学校関係者による意見・支援策	
<ul style="list-style-type: none">家庭地域教育学級に参加を促し、啓発活動を行っていけたらよいと思う。「おやじの会」、「PTA」活動とも連携して環境整備の一端を担うことを考えていきたい。	

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">スマートフォンの使用時間や目的、帰宅時刻を探れている。生徒は8割強、保護者は5割がどちらかと言えば守れていると回答している。規則正しい生活習慣が身についているは「どちらかといえばできている」が生徒・保護者ともに7割強に上る。フォーサイト手帳を一日に開く回数が多い生徒ほど、計画を立てて行動することの意識が高い。	
自己評価	
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	
<ul style="list-style-type: none">生徒と保護者の意識に開きがあり、時間の使い方に対する捉え方に差異があることがわかる。道徳や学活でも指導していく必要がある。食育指導と生活習慣は関連付けて取り組んでいくことで効果が上がると考えられる。フォーサイト手帳の使用方法について年度当初だけでなく、年度途中の検証も行っていく。	
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none">ICT活用促進に伴い、SNS等に関する指導も重点的に取り組んでいく体制作りを行う。教科授業や道徳など横断的カリキュラムを作る研修会を実施する。フォーサイト手帳の活用について通信などで紹介し、保護者にも時間のマネジメント教育を促してもらえるような方策を構築していく。	

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育」通信や「給食」のメニュー表なども活用できると思う。 ・スマホに関しては保護者とも連携し,指導をしていくと効果があがるのではないか。 ・大人の生活習慣が子どもに影響を与えてるので,PTAとともに取り組んでいくことも考えていきたい。

(4) 学校独自の取組

重点目標	穏やかな気持ちで自発的なめあてをもって過ごす学校生活の推進
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時のあいさつ運動や朝学活時の呼名 ・読書習慣の定着と穏やかな状態での一日の始まり目指した朝読書 ・放課後学習, 家庭課題学習支援の自主的な活用
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート

中間評価

自己 評 価	各種指標結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に挨拶をする意識は 86% と高い。 ・読書の習慣化や家庭学習は 75% が定着していると感じている。 		
	<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を短期で取り組む基礎的な内容が多く, きちんと取り組めている。 ・学校は楽しく過ごせていると答えている生徒がほとんどであり, 落ち着いて朝読書や授業に臨めている。 </td> </tr> </table>	分析 (成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を短期で取り組む基礎的な内容が多く, きちんと取り組めている。 ・学校は楽しく過ごせていると答えている生徒がほとんどであり, 落ち着いて朝読書や授業に臨めている。
分析 (成果と課題)			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を短期で取り組む基礎的な内容が多く, きちんと取り組めている。 ・学校は楽しく過ごせていると答えている生徒がほとんどであり, 落ち着いて朝読書や授業に臨めている。 			
学校 関 係 者 評 価	<table border="1"> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用を再考し, 自ら課題を見つけ取り組むようにする必要がある。 ・キャリア教育を通して, 自分の生き方について主体的に考えていく教育活動を展開する。 </td> </tr> </table>	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用を再考し, 自ら課題を見つけ取り組むようにする必要がある。 ・キャリア教育を通して, 自分の生き方について主体的に考えていく教育活動を展開する。
分析を踏まえた取組の改善			
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用を再考し, 自ら課題を見つけ取り組むようにする必要がある。 ・キャリア教育を通して, 自分の生き方について主体的に考えていく教育活動を展開する。 			
<table border="1"> <tr> <td>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・キャリア教育の事前学習・事後学習 </td> </tr> </table>	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・キャリア教育の事前学習・事後学習 	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・キャリア教育の事前学習・事後学習 			
学校関係者による意見・支援策			

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで挨拶をする意識は依然として高い数値を示している。 ・読書は定着しているが,家庭学習定着との開きがある。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校だけでなく,校内でも挨拶が活発に行われるようになっている。 地域の方々や来校者にも挨拶することができている。 ・読書や家庭学習については,生徒と保護者の意識に差異が見られる。保護者はもっと意欲的に読書・学習に取り組んでほしいと望んでいることが伺えた。 ・キャリア教育の内容や設定時数の変更に伴い,次年度は効率よく取組カリキュラムを編成する必要がある。 ・定期考查前だけでなく,日常的に学習する習慣を定着させる工夫が求められる。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着だけでなく,意欲的・継続的に取組める内容にしていく。 ・読書活動を促進する取組を展開する。例えば,国語科だけで取組のではなく,学年・学校体制で活動するようなものを考えていく。 ・ボランティアを活用し,放課後学習の支援体制を構築していく。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・常にタイム・マネジメントを意識してあらゆる行事を見直す。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を精選する。(減らす前提ではなく,ねらいを明確にして集中して取り組む。) ・電話対応時間を18時30分とし,以降は留守番電話に切り替える。 ・毎週水曜日を定時退校日とし,18時30分に学校を閉める。 ・運営委員会をはじめ機会を見つけて「働き方改革」について話し理解を深める。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・週一度の定時退校は定着しつつある。 ・昨年度より年休・特休の取得率は上がっている。 ・80時間を超える者は僅かである。 	
自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での共通理解とメールを利用した意識付けができている。 ・時間設定見える化したことにより,退勤時間の意識が高まった。
分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントを意識し,会議終了時刻の設定をする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・先を見通した企画・立案の推進が必要である。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート ・個別の面接
学校 関 係 者 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学校関係者による意見・支援策 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・改革を推進できるように、地域や保護者も協力していきたい。

最終評価

	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (中間評価時に設定した) 各種指標結果 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・年休取得率に大きな変化はないものの、定時退校以外の日も退勤時刻は早くなっている。 ・週一度の定時退校日の意識は定着した。
自己 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・意識が定着し、生徒指導以外で21時を過ぎることはなかった。 ・出校時に帰校時刻をホワイトボードに貼るという「見える化」したことで、業務の段取りを精選できた職員が増えることに繋がった。 ・持ち帰り仕事の把握ができるようになっておらず、業務の精選化については不透明な部分がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 分析を踏まえた取組の改善 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・帰校時刻を全教職員が明確にする。(定時退校の意識付けにもなる。) ・タイムマネジメントの方法について研修する機会を設定する。 ・会議の開始と終了時刻を設定する。 ・業務の分担を見直し、偏らないように考慮する。
学校 関 係 者 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学校関係者による意見・支援策 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・職務上、難しい面もあると思うが、上手に改革を進めてほしい。それが、教育の充実にも繋がっていると思う。